

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間における生産実績については単一セグメントのため製品種類別に記載しております。

品種別	生産高(百万円)	前年同四半期比(%)
小ねじ	684	△22.3
タッピンねじ	1,048	△24.6
ボルト	2,419	△25.3
座金組込ねじ	1,819	△28.1
その他	338	△44.6
合計	6,308	△27.1

(注) 1 金額は、販売価格によっております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 当社グループの製品は主として社内製作を行っているが、一部協力工場において外注加工を行っており、上記の数値には外注生産高が含まれております。

(2) 受注実績

当第2四半期連結会計期間における受注実績については、単一セグメントのため製品種類別に記載しております。

品種別	受注高(百万円)	前年同四半期比(%)	受注残高(百万円)	前年同四半期比(%)
小ねじ	687	△19.5	253	△12.5
タッピンねじ	1,113	△21.0	453	△29.2
ボルト	2,462	△21.0	931	△13.2
座金組込ねじ	1,781	△25.7	625	△27.8
その他	343	△42.8	135	△26.5
合計	6,388	△23.7	2,399	△21.4

(注) 1 金額は、販売価格によっております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第2四半期連結会計期間における販売実績については、単一セグメントのため製品種類別に記載しております。

品種別	販売高(百万円)	前年同四半期比(%)
小ねじ	684	△22.0
タッピンねじ	995	△25.8
ボルト	2,425	△24.9
座金組込ねじ	1,817	△27.9
その他	342	△44.3
合計	6,265	△27.0

(注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりです。

相手先	前第2四半期連結会計期間		当第2四半期連結会計期間	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
日産自動車(株)	2,563	29.9	2,269	36.2
スズキ(株)	975	11.4	679	10.8

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等を行われておりません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期におけるわが国経済は、昨年度後半からの急激な落ち込みがようやく底を打ちつつあり、一部に回復の兆しが見られるものの、依然として景気の先行き不透明感はぬぐい切れず、予断を許さない厳しい状況が続いております。

当社グループの主要取引先であります自動車業界をはじめとする関連各業界においては、在庫調整の進展や新車買い替え奨励策が追い風となり、自動車生産台数は回復傾向にありますが、前年同期に比べ低い水準での推移となりました。その結果、当第2四半期連結会計期間の売上高は、前連結会計年度からの販売数量減少を主要因に6,265百万円(前年同期比27.0%減)となりました。利益面におきましても、原価低減諸施策の推進に努めましたが、売上高減少の影響をカバーできず、営業利益は、前第2四半期連結会計期間の171百万円の利益に対し、当第2四半期連結会計期間は79百万円、経常利益は、前第2四半期連結会計期間の148百万円の利益に対し、当第2四半期連結会計期間は68百万円、四半期純利益は、前第2四半期連結会計期間の15百万円の利益に対し、当第2四半期連結会計期間は27百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

資産の部については、流動資産が10,422百万円となり、前連結会計年度末に比べ965百万円の増加となりました。固定資産は7,161百万円となり、前連結会計年度末に比べ90百万円の減少となりました。

負債の部については、流動負債が7,846百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,039百万円の増加となりました。固定負債は6,036百万円となり、前連結会計年度末に比べ80百万円の減少となりました。

純資産の部については、株主資本が3,486百万円となり、前連結会計年度末に比べ188百万円の減少となりました。評価・換算差額等は85百万円となり、前連結会計年度末に比べ104百万円の増加となりました。

少数株主持分は、129百万円となり、前連結会計年度末に比べ1百万円の減少となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、第1四半期連結会計期間末に比べ664百万円増加し、2,453百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間末における営業活動による資金の増加は、799百万円となりました。

これは主に、減価償却費が184百万円、売上債権の増加621百万円、たな卸資産の減少91百万円、仕入債務の増加1,100百万円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間末における投資活動による資金の減少は、72百万円となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出72百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間末における財務活動による資金の減少は、62百万円となりました。

これは主に、長期借入れによる収入299百万円、長期借入金の返済による支出285百万円、短期借入金の純減少額75百万円等の資金の減少によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間の研究開発費の総額は54百万円であります。